

YMCA健康福祉専門学校

## 健康福祉ニュース

What's New!

・新潟ボランティア報告

・学生主催！AYET報告

### 進路指導って・・・

ある高校の進路指導室での実際にあった話です。

「先生！進路のことで相談があります。私は将来、お年寄りのお世話をする介護福祉士になりたいと思っています。」「知り合いに介護福祉士がいて、自分に向いていると思ったのですが・・・」

「そうなんだ。介護福祉士か。」「じゃあ大学受験だね？どこか志望校はあるのかな？」

「はい！夏休みに専門学校の見学に行ってきました。」

「え？専門学校？どうして専門学校？君の成績なら大学に入れると思うけど？」

「はい。でもその専門学校は就職率も高く、卒業生全員がちゃんと介護福祉職に就いているんです。それに専門学校なら1年生からやりたいことを専門的に学べるし、その専門は、学校行事も多く、在校生もみんな楽しそうだったんです。それに大学より早く就職できますから。」

「でも大学の方がいいよ。介護福祉士の国家資格もとれるし、4年間様々な事が学べるじゃないか？もしも途中で進路を変えなければ大卒ということで就職もできるしね。」

「先生、確かに大学でも思いました。でも私は介護福祉という学問を勉強しようとは思っていません。福祉専門職として現場でお年寄りに寄り添いながら互いに学び合いたいと思っています！」

「でも専門学校より大学でしょう？」

みなさんはどう思いますか？「とにかく大学に入学すれば何とかなる！」という進路指導は問題を感じませんか。大学で何を学びたいのですか？将来の目標もなく大学に入っても・・・。入学してから考えますか・・・？それも良いでしょう。

さて、大学の中退率が近年増加しているのは知っていますか？福祉大学に入学しても福祉現場に就職する割合が50%未満なのは何故でしょうか？こうしたミスマッチは何故起こるのでしょうか？合格はしたけれど、やりたいことが見つからないという事にならないようにしたいですね。

専門学校の職能教育は、現場との連携が強く、専門職による授業と現場実習による体験授業を中心にしています。教科書だけでは学べない体験学習とグループワークを学びの柱にしていることを知ってほしいですね。コミュニケーション力や問題解決力はここで養われます。ここに専門学校卒業生の強さがあります。大学には決して真似のできない教育システムです。少人数で丁寧な指導も大学とは比較になりません。その結果として退学率の低さと就職率の高さがあります。こう考えると本当は、「大学よりも専門学校が向いている」という人がたくさんいるのではないのでしょうか。

卒業生の中には、すでに管理者や施設長として責任を果たしている先輩達も沢山います。学歴で仕事する時代から、能力(資格)で仕事をする時代になっていますね。

私たちYMCA専門学校では、資格取得はもちろんですが、様々な学校行事やYMCA諸活動を通して互いに育ち合うことを目指すとともに、人間教育に力を入れている学校です。実は専門学校も様々です。資格だけを取らせる学校もありますからね。どこで学ぶかではなく、何を学ぶか、そして持っている資格は同じでも専門職としての姿は違ってきます。

日頃から一人ひとりの生徒をよく把握していなければ進路指導はできません。そして進路先の実態を正しく知った上で、生徒の夢の実現の後押しをしてほしいと心から願います。

YMCA健康福祉専門学校

校長 小林 一郎





ボランティア活動をさせていただいた「特別養護老人ホームなごみ荘」の前で

## 中越沖地震から2ヶ月 ボランティア報告

新潟中越沖地震の発生から、早くも2ヶ月が過ぎようとしています。YMCAでは地震発生後から現地でボランティアのコーディネートをお手伝いして来ましたが、これからの支援を「高齢者のケア」とし、私たち専門学校生もボランティアとして現地入りしています。9月13日から現地入りした、介護福祉科の上野恒平さんは、「現地は少しずつ日常に戻りつつありますが、未だ自宅に帰れない方、仮設住宅から施設を利用される方も多くいま

す。通路にベッドを配置するほど高齢者の緊急受入が行われる中、やはり職員の方の負担は大きいと感じました。今回短い期間でしたが、それぞれのユニット(住居エリア)でコミュニケーションや食事介助をさせていただきました。被災地を目の当たりにし、学ぶこと・考えることの多いボランティアになりました。」と話してくれました。



試験の様子。しっかり練習したから(?)緊張はしていないようです。

## 日赤救急法講習会

日赤救急法とは病気やけがや災害から自分自身を守り、病人やけが人を正しく救助し、医師や救急隊に引き継ぐまでの手当てについて学びます。福祉スポーツ科ではこの「日赤救急法救急員」の資格取得が必修となっています。

救助者役とけが人役になり、包帯の巻き方や止血、骨折への対処から心肺蘇生まで、さまざまな状況への正しい対処を学習していきます。悪戦苦闘しながら、9月16日から3日間のハードスケジュール

を終え、最終日には試験を行いました。大きな声で「大丈夫ですか？痛みはありませんか？」と声をかけながら三角巾で患部を止血する様子は、立派な救急員でした！

けがや急病は時と場合を選ばずにやってきます。どんな状況でも冷静に対処できる専門職をめざします！



放水は思ったより水の勢いがすごくて、決められた姿勢でないと、ホースがぶれてしまうそうです。

## 消防隊結成！消火競技会に参加します！

厚木市では毎年「厚木市自衛消防隊消火競技会」が開催されます。

今年、この大会の「消火器の部」「屋内消火栓の部」に福祉スポーツ科専攻科の細野靖夫さん、清水徹さん、鈴木浩之さん、山田智子さん、加藤友美さん、前田智美さん、卒業生で現在千葉工業大学大学院に通う福島一敬さんが参加します。8月の半ばから、消防署で行われる訓練(!)に3回参加し、基本動作を習得、9月22日にははじめての放水訓練(実際に消火器・消火栓から放水する)を体験しました。屋内消火栓の部は3名1組で行われ、それぞれに役割が与えられて

います。また、出水までの操作を男子90秒、女子100秒、収納を男子100秒、女子110秒で行わなくてはなりません。操法、礼法ともに減点方式で行われます。参加するみなさんは「屋内消火栓や消火器を使うのは初めてでしたが、知る機会になってよかったと思います。真夏の訓練は大変でしたが、卒業の記念に、思い出に残るよう頑張ります！」と話してくれました。競技会は10月12日に行われます。



## ビルドキャンプはモンゴルを満喫

8月20日～21日、静岡県朝霧高原にある「モンゴル村」で、成人の知的障がい者の方たちと野外キャンプを行いました。モンゴル遊牧民族の住居「ゲル」での宿泊体験や民族衣装を着て写真撮影を行いました。

モンゴルの国際開洋第1高等学校からの留学生5人とモンゴル村にいらっしゃるご夫婦、そして知的障がい者施設綾瀬ホームの利用者さん10名、職員さん2名、そしてYMCAのリーダー8名で交流を行いながら、隣接するまかいの牧場で動物とふれあったり、モンゴル料理を作ったりと楽しい時間を過ごしました。

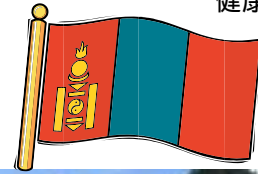
夜の食事では、キャンプファイヤーで火を囲みながらバーベキューと伝統料理ノグーツルをおいしくいただきました。野外での食事や、テーブルを囲んでの歓談、目の前で焼いたたくさんのお肉や野菜をみなさんとても楽しんでいる様子でした。

食事の後はモンゴルの伝統楽器「馬頭琴」の演奏と歌を聴きました。馬頭琴はモンゴルの草原をかける馬を思わせるような力強さや優しさを感じる音色で、キャンプに参加した利用者さんたちも聞き入っていました。留学生による歌は、母や父のことを歌っていて、透き通るようなきれいな歌声でした。また、両親と離れて日本で暮らす高校生たちの、両親を思う気持ちの伝わってくるような心のこもった歌でした。

腹・心臓・唇を震わせて声を出す「ホーミー」という独特の発声の歌も聞かせてくれました。高音や低音の音が、今までに聴いたことのない心臓に響くような不思議な歌でした。演奏と歌の後は、みんなで馬頭琴に触れ、演奏を体験しました。参加者からはとても楽しそうな表情が見られ、国が違っても、言葉が理解できなくても、音楽は心で感じることができるのだと思いました。

今回のキャンプは、牧場散策や、モンゴルの文化にふれたり、仲間同士の交流が目的でしたが、モンゴルの高校生との料理をしたり、馬頭琴に触れることができたりと、とても貴重な経験ができました。毎年行っているこのキャンプですが、来年も、参加者にみんなの思い出に残るような企画を考えていきたいと思えます。

福祉スポーツ科1年 岩崎 遥  
福祉スポーツ科専攻科 山田智子



ビルドキャンプとは・・・

YMCA福祉スポーツ研究所では、障がい者施設に入室・通所している方を対象に、余暇活動を目的として、宿泊を伴う野外活動を行っています。キャンプの企画、運営はYMCA健康福祉専門学校の学生によって行われ、集団行動の調整力、コミュニケーション力の向上や障がい者理解の実践の場として位置づけています。

## 障がいのある子どもたちをキャンプに！ 第10回インターナショナルチャリティーランが行われます



チャリティーランは大会委員長のチャック・ウィルソンの提唱により、集められた寄付金で全国の障がいのある子どもたちに、キャンプに参加する機会を提供しようと、1987年から行われています。

昨年の第9回横浜YMCAインターナショナル・チャリティーランには、132チームが参加しました。集まった寄付金のうち136万円が日本YMCA同盟を通じて全国のYMCAで行われる障がい児活動の支援のために、419万円が神奈川県内のYMCAを通じて障がい児(者)支援プログラムのために使われます。YMCA健康福祉専門学校で行う障がい児キャンプSEEDプログラムも、このチャリティーランの支援をうけ、運営されています。そして今年、「第10回横浜YMCAインターナショナル・チャリティーラン」は10月20日、横浜のみなとみらい21臨港パーク内で開催されます。YMCA健康福祉専門学校の学生も多数参加しますので、ぜひ応援してください！

## 学生主催！ Atsugi Ymca Enjoy Training - AYET

厚木YMCA初の試みである、第1回AYET (Atsugi Ymca Enjoy Training)キャンプが2007年9月16～17日の1泊2日、静岡県立朝霧野外活動センターで行われました。このキャンプは、日々のリーダー活動を通じてさまざまな研修に参加し、日本中のYMCAリーダーたちとの交流を経験した学生が中心となり、「研修で感じた刺激や、たくさんの人と関わることの楽しさを厚木YMCAでも共有したい！」との思いから企画が始まりました。普段同じ場所(学校)で学び、リーダー活動に参加する仲間たちが、学科を超えて年齢を越えて交流し、厚木YMCAを活発に盛り上げていきたい！と感じる2日間になりました。

### AYETを終えて

企画をするにあたって参加者に何を伝えていきたいか、何を学んでほしいかなど、実行委員で話し合いを重ね、テーマである“あつぎはあついわ”が決定しました。各クラスのホームルームの時間をお借りしてキャンプの趣旨を伝え参加者をつのり、キャンプ当日は全部で27名の方が参加してくれました。キャンプでは、緊張をほぐすためのアイスブレイキングから始まり、その後、参加者を3つのグループに分け、運動会やミッションゲーム、キャンドルファイヤー、野外調理など様々なプログラムを行いながら交流を深めていきました。また、ワークショップを基に話し合いを行ったり、グループタイムでは、「あつぎはあついわ」について各グループ話を膨らませながらディスカッションしました。参加者一人ひとりがYMCAについて考え、話すことでたくさんの新しい気づきがあったようです。今回の体験をこれだけで終わらせずこれからに繋げていきたい、このキャンプに参加して良かった、という声をたくさん聞くことができました。きっと、自分の中で何か少しでも成長できる機会になったのではないかと思います。AYETを行うにあたって厚木ワイズメンズクラブの方々、スタッフ、OB・OGの方々にたくさんの支援をいただきました。ありがとうございました。私自身にとっても厚木YMCAで過ごした3年間の集大成となりました。来年以降もこの活動が続くことを祈っています。

2007AYET実行委員長

小林あゆみ

2007AYET実行委員

川原邦之、鈴木浩之、高橋奈緒子、穴戸眞、衛本泰良



### YMCA健康福祉専門学校

福祉スポーツ科  
健康福祉科  
介護福祉科

〒243-0018

厚木市中町4-16-19

電話 046-223-1441

FAX 046-223-2101

Email: ymkenko@yokohama-ymca.or.jp

HP: <http://www.yokohamaymca.ac.jp/health>



小田急線本厚木駅から徒歩5分  
本厚木駅周辺にはミロードをはじめたくさんのお店もあり便利です。有名ラーメン店もありますよ！

体験入学をおこなっています！  
<http://www.yokohamaymca.ac.jp/health/>

## Realize your dream!

～地域福祉をささえるのはあなたです！～

YMCAではさまざまな活動を通して次のことを学びます。

- 「自分のいのちとみんなのいのちを大切にすること」
- 「家族、地域のひとりひとりとして責任があること」
- 「世界と地球を見つめ、考え、行動すること」
- 「ボランティア精神とリーダーシップを身につけること」
- 「すこやかな心と体を育むこと」

そしてこれらを実現するために、次のことを大切にします。

- 「Caring (思いやり)」「Honesty (誠実さ)」
- 「Responsibility (責任感)」「Respect (尊敬心)」

YMCA健康福祉専門学校では、カリキュラムや学校行事を通じて4つの大切な価値を意識する機会を取り入れています。将来、福祉・保育・スポーツの現場で活躍する学生のみなさんに、他者への思いやりの心を持ち、相手を敬い、自分の行動に責任を持ち、誠実に取り組んでいく専門職になってほしいと願っています。